

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
<http://www.catholic-honjyo-church.org>

□「聖年三か月目」

主任司祭 パウロ 豊島 治

□「司牧評議会からの

お知らせ」

□「日本二十六聖人殉教者祭」

「聖年三か月目」

主任司祭 パウロ 豊島 治

三月のご挨拶を申し上げます

□教皇様のために

教皇様が二月十四日に肺炎のためローマの病院に入院されました。(病室から公務を続けられています。)そこで、全世界に向けて教皇様の回復を祈る呼びかけがなされました。また、菊地枢機卿様も二十五日に東京教区のホームページを通じて教区民に祈りを呼びかけられました。

本所教会では通達前々日に行われた評議会で聖母に祈りをささげました。

バチカンニュースのウェブサイトでは、通常サンピエトロ聖堂の外観をライブ配信していますが、日本時間午前六時と午後八時になると教皇のためにロザリオの祈りが約三十分間配信されます。現地報道によると、広場には二千人が集まり祈りを捧げているとのことでした。もしお時間があれば、ぜひアクセスしてみてください。ただし、公式な放送予告ではないため、変更の可能性があります。教皇様ご自身もSNSで祈りに感謝のメッセージを発信されています。

教皇様が入院されているアゴスティーノ・ジエメリ病院は、サンピエトロ大聖堂から七キロ、車で約三十分の場所にあります。病院の前にも人々が集まり、聖ヨハネ・パウロ二世像に向かって祈りをささげています。



聖堂横において教皇の回復を求める祈りの場を設置しました

□苦しみと信仰

二月十一日を世界病者の日と定めた聖ヨハネ・パウロ二世は、使徒的書簡「サルビフィチ・ドロリス」を特別聖年に発表しました。この書簡は、二度にわたる暗殺未遂事件で心身ともに傷ついた中で書かれたもので、人間の苦しみは普遍的なテーマであり、場所や時を選ばない現実であると述べています。つまり、苦しみは人間の本質的なテーマであり、人間について考えるとき、神との関係なしには理解できないということでした。枢機卿様主司式の殉教者祭を行った本所教会は壮大な殉教者の苦しみ思いを馳せる機会をもっています。特に今年は聖年ですから「司教の日記」「教区ニュース」でも巡礼とからだ記事が上げられました。

本所教会は幼稚園との関係から巡礼指定教会にはなっていないませんが、ブログや教区報で巡礼者が訪れたことが報じられた後、問い合わせが増えています。現状では、巡礼団体ごとの自主的な行動をお願いしています。特に、幼稚園の卒園式の練習期間中は、平日の聖堂内の椅子の配置が変わっているため、制限があります。行事や園児・保護者の往来に関する情報は、お問い合わせいただければお答えできます。

憎悪による焼き討ち、震災、戦災を経験した本所教会にとって、殉教者に保護を求めた歴史そのものが証です。そのため、巡礼を希望される方がいることは理解できます。巡礼は旅であり、巡礼の歩みと自身の人生の歩みを重ね合わせること、過去の苦しみを振り返ることができます。苦しみの意味を考えることは、人生を考えることと深く結びついているのです。

□四旬節に向けて

三月五日から四旬節が始まります。使徒的書簡と教皇メッセージは、私たちの苦しみがキリストの苦しみに結びつき、人々の贖いと救いに繋がると述べています。このことを意識することで、漠然とした不安が光へと変わる準備になることを願っています。